北鎌倉台峯トラスト　北鎌倉の景観を後世に伝える基金

北鎌倉だより

会報

2019 年 4 月　　NO.39

＜建設が進む管理用施設　山ノ内配水池脇＞

保全配慮地区の保全が決定！

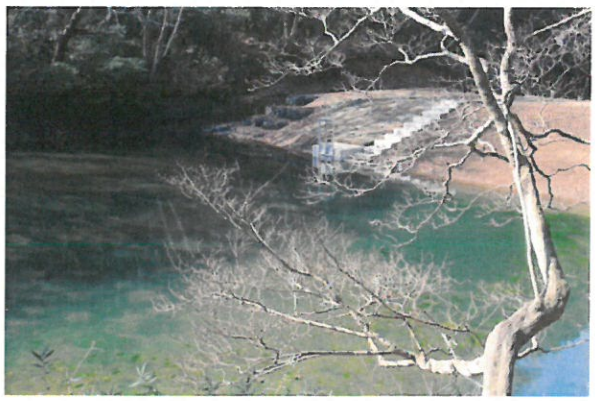
目次

■「谷戸の池」上部の土砂崩壊と池への流入　2
■ 速報 “保全配慮地区”（北鎌倉側斜面）の保全が決定！　3
■ 緑の洞門　それが明らかにした鎌倉の文化度　4
■「台峯を歩く会」と関連活動の報告　6
■『北鎌倉山歩き』 - 生徒さんの感想文　7
■ 鳥の名前よもやま噺 ④ フクロウ　8
■ 会員の皆様から当会への声　9
■ 台峯の周辺 ⑰　『私家版』　10
■「会員の集い」、活動記録など　11
■ 整備工事により変わった風景　12

「谷戸の池」上部の土砂崩壊と池への流入

2014 年 7 月に台峯の実施設計が発表されて以来、会員の皆様には各号で工事の進捗状況をお伝えしてきました。(久保理事記。なお、「」内は会報の副題もしくは記事の表題)

「台峯緑地の整備をひかえて」
2016 年 2 月号
「台峯整備工事が始まります」
2016 年 8 月号
「台峯整備工事が始まりました」
2017 年 4 月号
「谷戸の池」の浚渫が完了しました」
2017 年 9 月号
「『谷戸の池』の堤防工事が始まります」
2018 年 4 月号
「工事の遅延と今後の整備について」
2018 年 9 月号



＜池と堤防、水門＞

完成した谷戸の池と堤防、水門等については池を取り巻く環境となじまない点も見受けられますが、そこは自然の包容力がある程度カバーしてくれるものと考えております。

その後、毎月、実施している、モニタリング調査の中で「谷戸の池への土砂の流入」が問題視されました。12月理事会で問題点の具体的内容につき、実地調査などの検証結果が話され、緊急に対策を講ずる必要性があることが確認されました。

＜池の上流側、土砂の崩落・流入＞

早速、12 月 4 日に公園課課員 2 名と現地の立ち合い調査を行いました。「谷戸の池」上部の崩落と土砂の池への流入現場を立ち入り調査した結果、市側も「このまま放置しておく訳には行かず最低限の範囲での対策は必要であろう」との感触でした。

堤防工事はすでに完了しており、想定していなかった工事になるようで、予算面を気にしているようでした。

年が明け、本年 2 月 3 日の理事会で、次の 3 点につき公園課に要望することにしました。

①池の上流(池の端から 10 メートル以内)に沈砂池のようなマスを設けそこから池の底辺にジャバラ管を敷設しで水門付近まで土砂を排出する
②池の上層部湿地帯に起きている水路の崩壊(写真参照)を防ぐため、池の端から 20 メートル上部のハンノキ付近に土留め板のようなものを設置する
③取り残した土砂の小型トラック等による搬出

2 月 22 日公園課課員と一緒に現状調査

を行いました。

その結果、①および②については、予算策定時に計上したいとの意向が示されました。

引き続き、公園課との協議を重ねていく中で、「現存する自然環境を最大限保全する」とする基金のポリシーを堅持していきたいと思っています。

望月眞樹（理事）

“保全配慮地区”（北鎌倉側斜面）の保全が決定！

速報

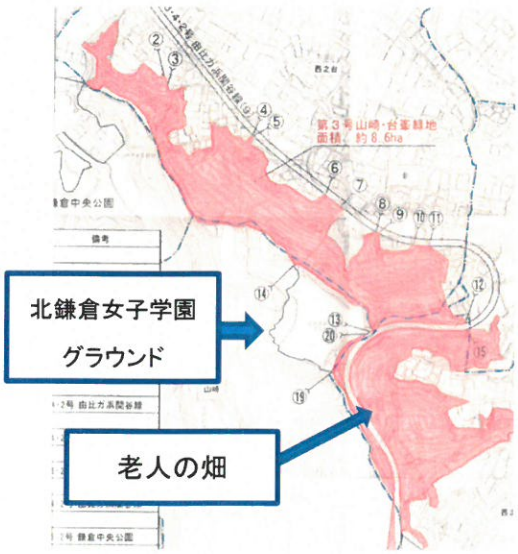
前号でお伝えしましたが、昨年８月に当会は市公園課から、台峯保全配慮地区（約8.6ha）の保全の見通しが立った、との説明を受けていました。

もともと、台峯緑地の北鎌倉側斜面は基本計画上台峯緑地の中心部とは異なる「保全配慮地区」という名称で保全が見込まれるものの、紳士協定に過ぎなかったのです。

この度市長から、正式に都市計画決定された、との『ご報告』がありました。これにより、保全が法的に裏付けられたことになります。

今後県からの事業認可取得を経て、2024年にかけ、鎌倉市が買収していくことになります。

＜保全配慮地区：　＞



＜右の『ご報告』の別紙資料（部分）に当方で彩色した＞

＜市長からの『ご報告』の内容＞

鎌公園第1991号

平成31年(2019年)3月12日

NPO法人北鎌倉の景観を後世に伝える基金

御中

鎌倉市長　松尾　崇

第3号山崎・台峯緑地の都市計画決定について

（ご報告）

春寒の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日頃から本市の公園事業に御理解と御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、過日ご説明いたしました**(仮称)山崎・台峯緑地の整備計画については、関係法令に基づく手続きを経て、別紙のとおり「第3号山崎・台峯緑地」として都市計画を定め**、平成31年(2019年)2月6日付けで告示いたしました。

今後は、平成31年度(2019年度)からの事業着手を目指して、神奈川県から事業認可取得に向けた作業を進めてまいりますので、ご承知おきいただければと存じます。

ご不明な点などがございましたら、下記担当にお問い合わせください。

【事務担当】

部署　鎌倉市都市整備部公園課

担当　整備担当　林、大淵

「緑の洞門　それが明らかにした鎌倉の文化度」

昨年 11 月 23 日（金・祭）山ノ内公会堂にて恒例の「会員の集い」が開かれました（P.11 に報告あり）。

今回は特に「北鎌倉緑の洞門を守る会（北鎌倉史跡研究会）」共同代表　鈴木一道氏にお越し願い、表記の題で「緑の洞門」問題につきお話し頂きました。以下、その概要です。

1. 当会が求めること

私たちが要望していることは、次のように要約できます。

「洞門をなるべく自然のまま残し、早期に通行できるようにしてください。そのために人と自転車が通れる仮設工事の早期実現が必要です。」

長期にわたる洞門封鎖は、危険な県道に迂回しなければならない地元住民へ耐え難い負担を、訪れる人にも迷惑をかけています。仮設工事により、人と自転車が早急に通行可能とする一方、本設工事は時間をかけてもできるだけ現状を保存するような工法を模索すべきです。

2.「緑の洞門」経緯

次ページ別表を御覧ください。

3. 不誠実な言動

岩塊（尾根）を開削してトンネルを廃し、自動車が通れるようにしようとする開発派や、彼らに動かされているような市などの言説・言動には、誤りや不誠実な虚偽が含まれていました。

例えば、「以前は文化庁も価値があるとは言っていなかったのに、今になって言い出

した。国家権力の介入だ」といった批判があるのですが、これは誤った言説です。

文化財の価値は本来客観的なものです。また地権者が民間で、文化財指定に協力的でない場合は、これによって全体の指定が遅れるのを避けるため、当該箇所の指定は後日にと、外しておくのは よくあることです。

そもそも当該箇所について価値ありと判断を下したのは、鎌倉市の文化財専門委員会であって、文化庁ではありません。

そのほかにも、

- 第“三者”委員会の利用
  内容が疑問視された過去の報告書と同じコンサル会社に調査が外注され、公平性が疑われる。
- 日本トンネル技術協会調査結果
  ホーム側洞門壁の厚さはコンサルにより僅か 30～50cmとされたが、実際はもっと厚かった。
- 文化財専門委員会の議事録に改ざん
  市都市整備部道路課が 2014 年 7 月の文化財専門委員会会議の議事録を改ざん、洞門破壊に向け情報操作。都市整備部長が事実を認め謝罪。
- 2018 年 7 月に説明会を開催するとの 5 月市長発言が反故に
- 「消防車がトンネルを通行できずに火事で死んだ人がいる」 消防署は、トンネルが消防、救急の妨げにはなっていない、と再三明言。
- 円覚寺は市民には「市の決定に従う」としながら、その直前に市へ開削の実施を迫っていた。

など、看過できない問題があります。

4. 仮設工事が合理的な理由

以下のような理由により、仮設工事を行うことが合理的であると考えています。

①歴史、文化財、工学等専門家が保全要請
②日本考古学協会等専門組織が保存要請
③市文化財専門委員会が価値を認める
④市長が市議会にて公約
⑤円覚寺、雲頂庵:「市の決定に従う」
⑥消防署:「洞門が消火、救急の妨げになっていない」
⑦市民憲章 「歴史的遺産、自然及び生活環境を破壊から守り、後世に伝える」
⑧長期の閉鎖による住民等の不便、危険
⑨価値中立的解決策と言える

ぜひ皆さんに協力いただき、「緑の洞門」を守っていきたいと願っております。よろしくお願い申し上げます。 (大きな拍手)

以上

＜ 緑の洞門 経緯 ＞

2010～11 雲頂庵にて開発談合 「キーワードが安全ならまとまる」
2013.12.26 北鎌倉裏駅トンネルの安全対策協議会発足
2014. 1. 1 北鎌倉史跡研究会として発足 2015. 3. 2 現名に変更
8.28 北鎌倉裏駅トンネルの安全対策協議会 「開削庵」を採択
2015. 1. 19 当会(貴会の賛同)の保存と安全対策を求める「要望書」
1.28 日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会「要望書」 2016. 4.28 再要請
4.28 緑の洞門閉鎖 通行禁止 洞門を守る署名 10ヶ月間で 21,741 筆
8.18 北鎌倉隧道安全性検証等業務「中間報告」 市長これにより開削を決定 委員の一人が「結論ありきの委員会」と
8.31 北鎌倉隧道安全性検証等業務「報告書」 日本トンネル技術協会
12.10 「第 1 提言」 翌年「第 2 提言」
12.21 北鎌倉・円覚寺の境内谷戸景観の保全を求める有志の会 開削計画の撤回要請
2016. 2.16 住民監査請求「陳述」
6.30 市議会 鎌倉隧道が所在する尾根の文化的価値の公正な検証を求める決議
7. 8 文化財専門委員会、洞門を含む尾根の文化財価値を認める
7.20 円覚寺結界遺構の保存と活用を求める有志一同
7.25 市議会全員協議会にて市長が開削から保存への方針転換を表明
8.11 洞門手前鎌倉側一部剥落
11.28 市長定例会見にて「翌年の夏までには仮設工事を完了」と発言
2017. 3.31 北鎌倉隧道安全対策検討委員会「報告書」
2018. 5.18 第 14 回 国指定史跡円覚寺境内保存管理計画運営連絡協議会
5.30 文化財専門委員会議事録非公開 円覚寺が地権者として出席

「台峯を歩く会」と関連活動の報告

2018年3月より2019年2月までの「台峯を歩く会」と関連活動の報告を致します。

「歩く会」も本年2月で244回開催いたしました。2017年2月より、谷戸の池浚渫工事、仮設道路関連工事、堤体補修工事等々で、立ち入り禁止となってこの2月で2年が経過しました。「歩く会」はコースを変更し継続しました。

2017年11月の鎌倉市からの新提案、翌年1月の撤回等の経過が有りましたが、まだ数点の交渉を継続中です。会員の皆様の変わらぬご支援のお陰と感謝致しています。

＜2018年＞

3/18　配水池横のオオシマザクラは既に7分咲き。北鎌倉女子学園ワンゲル部の先生、生徒さんの参加も有り盛会。心配していたヤマアカガエルも無事産卵。

〈2019/3/17は3分咲きのオオシマザクラ〉

4/15　風雨共強く大荒れのためやむなく中止としました。

5/20 「ミドリショップ記念山歩き」5月の台峯は、ホトトギスと出会いウツギに代表される白い花々が満開です。田んぼではシュレーゲルアオガエルが鳴きカルガモが出迎えてくれました。

〈満開のホトトギス〉

6/17　今回のテーマはシジミチョウの仲間と、6月のよく似た樹木と野草。ミズキとクマノミズキ、クワとヒメコウゾ。ホタルは今年も元気で6/9　180頭のゲンジを確認しました。

7/15　本年は6/29に平年より22日早く梅雨明け。「夏本番」気温35度超へ。観察テーマはチョウ。樹液に来るチョウ、ジャノメチョウの仲間、黒いアゲハチョウ。なお、6/27に市職員2名の参加を得て「ホタルモニタリング」実施。ヘイケボタル70頭を確認しました。

8/19　コジュケイの親鳥と卵　コッソリと見せてもらいました。

9/16 「台峯立ち入り禁止解除延期」の為、依然として谷戸底は立ち入り出来ず。

9/17のマツムシを聴く会 － 他グループの草刈り機による除草の影響で激減。

10/21　10月末で立ち入り禁止が解かれるので、尾根道の山歩きも最後？2度にわたる台風の影響で、塩害が予想以上。紅葉前に落葉。

11/18「なださんを偲ぶ山歩きの会」 今年で 5 回目。1年振りに通常の谷戸底の散策路を歩く。池、堤防等問題点が浮き彫りになった。テーマは目立つ木の実、草の実、草紅葉。

12/16 鎌倉市と現地で行われた話し合いの報告。テーマは12月に残っている紅葉、ムラサキシキブ、イヌビワ、ビナンカズラ他。なお、12/13 北鎌倉女子学園生徒課外授業で台峯を歩く。今年は変則で 3/15 と年2回実施する事に成りました。送られてくる生徒の感想文(下記)を読む度にこの活動の重要性を再認識させられます。

＜2019年＞

1/20 真冬らしい晴天が続き湿地も含めカラカラに乾燥です。アオジ、ミソサザイルリビタキ、ウグイスと出会う。

2/17 今日鳴き声が聞けそうな野鳥 ウグイス、モズ、アオゲラ、シジュウカラ早春に咲く低木の花 オニシバリ、ウグイスカグラ 。

毎月第 3 日曜日 9時山之内公会堂 集合です。皆さんの参加をお待ちしております。

2019/3 望月晶夫（理事）

『北鎌倉山歩き』 **—生徒さんの感想文**

昨年 3 月に北鎌倉女子学園中学 1 年の生徒さんを台峯にご案内した際の感想文を、学校およびご本人のご了解を得て以下掲載します。

北鎌倉山歩きという企画は、最初は乗る気こそしなかったけれど、いざ行ってみると、大自然の雄大さやその神秘に直接触れて、見て感じることによって一気に楽しくて充実した一日へと変わってゆきました。

グラウンドへ行く道を一本ぬけると、そこには新田軍が鎌倉を攻めた時に通ったとされる路があること。山の頂上から俯瞰した山が連なった絵画に劣らぬ綺麗な景色。ホーホケキョとウグイスが鳴く声。絶滅危惧種のウグイスカグラが咲き誇っていたこと。すかんぽを摘んでかじったら意外にもおいしかったこと。

普段送っている日常から一歩はずれただけで、私の全く知らない世界がそこに広がっていました。講師の方に質問すると、なんでも丁寧に教えて下さいました。クヌギとコナラの違い、アオキの雄花と雌花の違いが今日完璧にまで分かった気がします。学校周辺にこんなにもおもしろい植物が生息しているのかと思わず息を呑んでしまう程沢山の動植物に山を通して学びました。

嫌なことがあった時、逃げ出したくなった時に此処にある山や森は不思議とそんな自分を受け入れてくれる。そしてまたそんな自分の背中を押してくれる。そんな気がします。私はそんな山々に囲まれて学んだことで、山登りをする楽しさが分かり、またちょっぴり成長できた自分にうれしいなと思いました。

（中1 H. T）

鳥の名前よもやま噺

第四話　フクロウ

探鳥会に参加すると、おわりに、「鳥合わせ」という伝統行事があります。

ここで全員が今日見た鳥の名前を確認しあいます。初心者にはよい勉強の機会となり、正式な鳥の観察記録とされます。私は見た鳥の多寡も、何らかの方法で記録に残したいと思います。しかし今日は何種見られたという記録とは違って、「いつもより鳥数が非常に少なかった、多かった」を記録しようとしても、見られた鳥の多寡はその人の主観ですから、良い方法がありません。

とはいえ、平成最後の冬を振り返ると、鎌倉では全体に鳥の数が少なかったと感じています。昨年、鎌倉には何度も台風がきて、例年なら沿岸部だけに留まる塩害が、風向きのせいか、遠く台峯や中央公園までも及んでおりました。その為か昨年の鎌倉の紅葉には風情がなく、梅の咲き具合も今一つでした。冬の間、鳥の餌になる木の実や草の実が全くの不作になっていたのだと思われます。鳥にとって今年の鎌倉は飢饉の地域だったのでしょう、羽があり行動力のある彼等は、塩害の少ない地域に行ってしまったのではないかと想像しています。

そんな中でも、相変わらず身近で増えているのがフクロウだと思われます。夜行性なので、姿は簡単には見られませんが、鎌倉では町並みのすぐ隣が放置された森林なので、注意すればいたるところで、フクロウの声が聞こえると思われます。

＜フクロウ＞　— Wikipedia より

さて名前の話に入りますが、カタカナで書く「フクロウ」が標準和名です。「梟」と漢字で書くと俗称となります。「フクロウ」は鳴き声が面白く、「五郎助奉公」と聞きなされたりして人気があります。少し調べただけでも 60 以上の俗称があります。さらに俗称に絡む沢山の民話があるのですが、ここでは紹介しきれません。鳥の民話に興味のある方は柳田國男の野鳥雑記の一読をお勧めします。

フクロウの正式の学名は **Strix uralensis Pallas, 1771** といいます。

最初の属名 **Strix** はフクロウ属、1758 年にリンネが付けた属名です。語源はギリシャ語由来のラテン語でプリニュウスの百科事典から出典されたものです。プリニュウスは御存知の方も多いと思いますがローマ時代の大学者で人類初の百科事典を作った人です。

＜プリニュウス＞　＜パラス　Pallas＞

— Wikipedia より

そもそも学名は 1735 年にリンネが「自然の体系」の初版で提唱し、1758 年の第 10 版で学名が付けられました。この学名を決める過程の事情は各関係者が自国の名前を学名にしたいと主張したので容易に決まりませんでした。そこで最も古い呼び名を学名にしようという事になり、文献として残っているギリシャ時代のアリストテレスの動物誌とローマ時代のプリニュウスの博物誌の中に出てくる鳥名を学名に採用しました。このフクロウ属の Strix はその中の一つです。

種名 uralensis はウラル地方産の意、～ensis はラテン語の名詞につく接尾詞で、「～に属する」という意味を持っています。

次の Pallas は種名フクロウ uralensis の命名者でドイツの博物学者です。彼はベーリングのシベリヤ探検に同行し、日本で見られる多くの鳥の命名者になっています。次の 1771 は命名した年で、ちなみに日本で云うとその次の年が安永元年で田沼意次が老中になった年です。学名が出来たのは日本で云うと徳川時代の中ごろです。

英名は Ural Owl で学名の直訳になっています。英語の Owl はフクロウ目の鳥名につかわれています。アウルと発音します。

この owl を大きい辞書で引くと、フクロウの意味の他に「賢そうに見える馬鹿者」という意味があります。ちなみに本格的な学術書である日本野鳥の会の研究報告書には Strix と云う名前がついています。

このプロの洒落に気が付いている人はあまりいません。

久保 順三

＜*Strix* 34 号 表紙 日本野鳥の会＞

【会員の皆様から当会への声】

－頑張ってください。
－当会のますますの発展を期待します。
－盛会をお祈りします。
－「緑の洞門」の保全、保護に期待しております。
－なかなか活動に参加できませんが、台峯が荒れずに、良好な状態で残ることを願います。
－地道な運動に感謝しております。
－森を自然のままに維持することと、人々が観光又は散策しやすくすることとを、両立させるのは大変ですね。
－何も出来ない、何も手伝わずに何年かを過ぎてしまいました。皆様の活動様子をお知らせで読ませていただき、頭が下がります。
－身体が不自由になり参加出来ません。北鎌倉は景観がよく守られていると思います。

などなど

（昨年 11 月「集い」へご欠席の方から寄せられたもの）

台峯の周辺 ⑰　　私家版

職場の本棚にはもう誰も読まなそうな本、とりわけ贈呈された私家版の類が眠っているが、暇に任せて手に取ってみると、これが案外面白い。昔の鎌倉が分るからだ。

『渡辺保追悼集』(昭和49 年刊)の故人は歴史学者で、昭和9年から数年間鎌倉の神奈川師範(現横浜国大附属鎌倉小・中)で教諭をしていた。ある朝「二の鳥居」そばの下宿から急ぎ登校の途中、宿酔のため自転車が千鳥足になって、段葛(だんかづら)脇の溝に落ちこんでしまった。当座額に絆創膏が白かったが、飲んだ店は「松岡」(昭和40 年代に同地の旅館「まつ岡」が現「鶴ケ岡会館」となった)などとのこと。

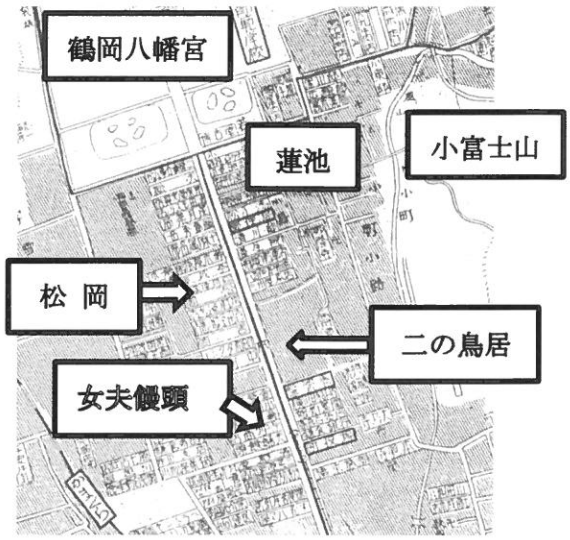
『思い出の記』(昭和52 年刊)の斉藤みつさんは明治35年生まれ。子どもの頃、鶴岡八幡宮の宮司だった母方祖父の、裏窓から頼朝の墓が見える雪ノ下の家には、毎年夏休みの孫らが集まり、わいわいと騒いだ。蓮池のそばの店でラムネや氷水を飲んだが、お八つの「女夫(めおと)饅頭」も美味だった(私も好きだったが、昨年閉店!)。汚かったのは、大塔宮(鎌倉宮)から覚園寺までの道に並んだ乞食達だ。また「庭の正面に見える小高い山は小富士山といって八月一日に山開きがあり、松明をかざして大勢登山するのを見た」。(富士山信仰については、台峯に近い寺分にも小学校名になった富士塚があるが、明治まで毎年旧暦 3 月 15 日に祭りがあった由。『かまくら子ども風土記』昭和 37 年　より)

ご本人は大正10年に結婚、昭和2年夫のロンドン転勤に伴い7年間滞英、帰国後神戸で夫が病没。敗戦を迎え、材木座芝原(現 5 丁目あたり)に転入する。その頃この町には、文化人、芸能人が大勢住んでいた。辰巳柳太郎、清水崑、水ノ江滝子、小夜福子、轟夕起子らであり、東京の家を失って別荘に居住した人も多かった。

食料難のため、みつさんも藤沢の六会から5貫の芋を背負って帰り、発熱したことがある。しかし、昭和 22 年は世の中に余裕が生まれ、地域の住民らで大きな別荘を借りての「芝原文化クラブ」が発足。卓球、野球、マージャン、ダンス、コーラス(『鎌倉の女性史第2集』鎌倉市 平成18 年 にこのサークルらしき記述あり)などを楽しんだが、英会話はみつさんが教えた。翌 23 年の夏には材木座海岸に海水浴のビーチパラソルが咲く。けれども、まもなく東京へ転出、鎌倉との縁はここで切れた。

ところで、この本の最終章ではご自分の妹である寿々子さんの、その娘「優美ちゃん」に触れ、「つい先日、結婚式に参列した気がしたが もう三人の子持」とある。この三人の中の一番上、雅子さんがこの度皇后陛下となられるのである。

本田 隆史



<[『昭和前期日本商工地図集成』昭和8年より八幡宮前辺り>

第20回「会員の集い」

11月23日(金、祭)午后、山ノ内公会堂に計30名ほどの方にご出席いただき、今年も「会員の集い」が開かれました。

今回は、特に「北鎌倉緑の洞門を守る会(北鎌倉史跡研究会)」共同代表 鈴木一道氏にお越し願い、「緑の洞門」問題につきお話し頂きました(本誌 P.4～5)。

台峯については、現状をご説明、ご報告しつつ、みなさまのご意見を伺った次第です。

当日の次第は以下のとおりです。

1 理事長あいさつ

2 活動報告

・山歩き、山の手入れ、モニタリングほか

3 台峯整備の計画変更と今後

4「緑の洞門 それが明らかにした鎌倉の文化度」
北鎌倉緑の洞門を守る会
共同代表 鈴木一道氏

5「台峯は生きている」 スライドショー

活 動 記 録

(2018年10月～ 2019年3月)

1 市公園課との打合せ、現地立合い等
11/13,22,12/4,2/22,3/12

2 会員の集い 11/23

3 理事会 10/7,11/4,12/2,1/6,2/3,3/3,3/31

4 台峯を歩く会(山歩き) (P.6,7 参照)
10/21,11/18,12/16,1/20,2/17,3/17

5 山の手入れ 10/20,11/17, 12/15,1/19,2/16

6 モニタリング
10/7,10/20,11/4,11/17,12/4,12/15,1/6,1/19,2/16

7 北鎌倉女子学園生徒を台峯に案内 12/13

編 集 後 記

紙幣のデザインが替わるという。

かつて新渡戸稲造が5千円札だったころ、女房殿の卒業した学校の初代校長が新渡戸博士だったと知って、福澤諭吉の学校で学んだ恐妻家が、

「お札(さつ)のとおり、俺の価値はお前の2倍、、、」

と、久しぶりに攻勢に出るが、

「天は人の上に人を造らず。人の下に、、、」

と反撃されて、慌てて退散。

正会員の皆さまへ 総会の予告

正式かつ詳細なご案内は、間近になってから別途お送りしますが、総会開催は来る 5 月25 日(土)09:30 から、山ノ内公会堂にて、の予定です。ぜひお越しください。

昔の郵便局消印

大塔宮護良親王 六百年大祭

神奈川県師範学校 創立六十年

- 『戦前の小型記念スタンプ集』より

会報39号

発行日	2019年4月30日(平成最後の日)
発行者	特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金
事務局	〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷3-2-12 本田方
HP	www.kitakamakura-daimine-trust.org
写真	小谷一夫・・望月眞樹・本田隆史

整備工事により変わった風景

「谷戸の池」堤体の工事により変貌した風景があります。現在の姿を以前と比べて下さい。

＜ 工 事 前 ＞

下流より「谷戸の池」堤防方面を眺める(37 号 12 ページ)

＜ 現 在 ＞

中央奥のハンノキは一部堤体に掛かって伐採

堤体上にはササが繁茂　(35 号 12 ページ)

入口に扉。堤体上にはまだ植生がない

「谷戸の池」から流れ出る滝　(35 号 12 ページ)

落差が減り、人工的な護岸